

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_a_Ba	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ベース）	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	上野 一郎		実務経験の有無・職種	有・プロベーンシスト	
学習目的					
この科目を受講する学生は、ベースという楽器の特性や演奏の仕方を理解し、音楽の中でベースラインを自由に作れるようになることを目指す。同時にコード理論・構成音を把握した上で対応できるスケールを使用しラインを構築できるようになることを目的とする。基礎的な理論・技術を再確認し、フィジカルなトレーニングで身に付けたテクニックを最大限に引き出せるように蓄積したものを反映できるようにしていく。卒業ライブでの成果を上げることも目的の1つである。					
到達目標					
基礎的な演奏能力をしっかりと身に付けること。また各種イベント、Real Dreams、卒業ライブ、外部オーディション等に対応できるように知識と技術を向上させることを目標とする。 また様々なジャンルに対応できるテクニックを習得し卒業後も幅広く活動できる能力を身に付けることも目標である。 技術と知識は表裏一体であることを重んじていく事が技術向上の最大のポイントである。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、基本的なリズムやビートなどベーンシストにとって重要な概念の理解、音楽理論の理解、演奏能力の向上を目指し、譜面によるエクササイズとそのエクササイズによる練習曲を交互に行っていく。 また楽曲分析を行い、適切な音選びが行えるように指導していく。				
注意点	この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。配布資料は毎回持参、毎回のレッスンにて習得したテクニックは反復練習を欠かさず行う事。フィジカルなトレーニングがメインになるので体調管理も必要である。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ビートとパルスについて		大きなビート小さなビートの共存についての理解		
2回	フレーズトレーニング①		細かいフレーズを丁寧に弾く		
3回	フレーズトレーニング②		細かいフレーズと大きなビート感を意識して弾く		
4回	フレーズトレーニング③		ベースラインの全体の構成を意識して弾く		
5回	リズムトレーニング		グルーヴ感を意識し全体を弾いていく		
6回	ケーデンスにおけるライン構築		コード進行とスケールを理解する		
7回	リズムにおけるフレージング		16ビートのクロマティックフレーズの正確な演奏		
8回	フィジカルトレーニング①		クロマティックフレーズとアルペジオフレーズを正確に弾く		
9回	フィジカルトレーニング②		全体を正確に弾く		
10回	音楽ジャンルにおけるベースライン①		ジャズ特有のコード進行の理解		
11回	音楽ジャンルにおけるベースライン②		ひとつひとつの音を、コード、スケールとの対応を考えて弾く		
12回	音楽ジャンルにおけるベースライン③		細かな音符を正確に弾く		
13回	フィジカルトレーニング③		難しいポジション、ストレッチをゆっくり正確に弾いていく		
14回	フィジカルトレーニング④		テンポを少しずつ上げて弾いていく		
15回	後期まとめ		集中力を維持し全体を弾き切る		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_a_Dr	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ドラム）	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	各自スティック持参 参考資料、音源は授業内で提示します。				
担当教員情報					
担当教員	下田 武男		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
一年次に習得した知識・実力をベースにしつつ、改めてドラムを演奏する上での基本的なグリップとフォーム、フットペダルの踏み方と足の使い方の再考・見直しからスタートし、基礎ルーディメンツの応用と実践、基本的なリズムワークをレクチャーして行くことで、ドラマーとしての総合的なテクニック（スティック&ペダルワーク）の向上を計ります。					
到達目標					
多種多様あらゆるジャンルの音楽スタイルを学び、楽しみながらドラムをプレイすることでの自己表現（タイム&タッチ&トーンを意識しつつ）が出来る様に学生を育成、指導して行きます。音楽は歌う人と音を奏でる人同志の合奏であるという意識を持ち、ただテクニックに頼るのではなく、ドラムを通して音楽の中でのコミュニケーション（会話）能力を高めていく授業を目指します。					
教育方法等					
授業概要	この授業は個人マンツーマンの形ではなくグループレッソンの形態で行います。学生同士お互いの得意;不得意、また各々のキャラクターと魅力的な部分をお互いにリスペクト・理解し合う事の大切さ、それをどのように学生に伝えていくかを意識しながら授業を進めます。授業を通して、単にテクニック面だけではなく、音楽に真摯に向き合い、音楽を生かすプレイ&アプローチの出来るミュージシャンの育成を目指します。				
注意点	この授業では学生間または講師と学生のコミュニケーションを重視します。リハーサル・本番など実際の現場の観点から、授業スタジオ内の私語などには丁寧に注意・説明し対応します。単に授業に出席するのではなく、実現場を前提としたマナー、ミュージシャンシップを意識する。各学生とも卒業後に実現場、実社会で起こり展開して行く様々な事々に、自分なりのヴィジョンを持ちながら対処し進めて行けるように指導・応援して行きます。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ルーディメンツ（1）		ダブルストローク・ロール系：フレージング、リズムワークへの応用		
2回	ルーディメンツ（2）		シングル&ダブルパラディドル系：フレージング、リズムワークへの応用		
3回	ルーディメンツ（3）		フラム系：フレージング、リズムワークへの応用		
4回	ルーディメンツ（4）		ラフ&ドラッグ系：フレージング、リズムワークへの応用		
5回	グルーヴ（1）		ロック、ポップス系フィール		
6回	グルーヴ（2）		ジャズ、スウィング系フィール		
7回	グルーヴ（3）		サンバ、ラテン系フィール		
8回	ツーバスドラム（1）		右足&左足のペダルワークのバランス、トレーニングの実践		
9回	ツーバスドラム（2）		ツーバス、(ツインペダル) 手足のコンビネーション：フレージング編		
10回	ツーバスドラム（3）		ツーバス、(ツインペダル) 手足のコンビネーション：リズムワーク編		
11回	ドラマー研究・国内編		国内のドラマー、アーティストの名演&名フレーズの検証、レクチャー		
12回	ドラマー研究・海外編		海外のドラマー、アーティストの名演&名フレーズの検証、レクチャー		
13回	オリジナルドラミング		各学生、各自自分の魅力（アーティスト性）を意識、表現することの大事性		
14回	デモ演奏・発表		楽曲に合わせてのデモ演奏（オリジナル、コピー曲どちらでの可）		
15回	まとめ		2年次全体のまとめ		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_b_Dr	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ドラム）	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	All American Drummer・SYNCPATION等の海外教則本、プリント、				
担当教員情報					
担当教員	麻生祥一郎		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
配布されたリードシートや楽譜を読みながら演奏する。 またそれらが音楽的な表現で演奏出来る事を目的とします。					
到達目標					
Voアンサンブルやインストアンサンブル等の楽譜やリードシートを音楽的解釈を持って演奏する事。 また、それらを暗譜すること。 1年次よりも高度な表現で演奏。					
教育方法等					
授業概要	次の時限に行われるVoアンサンブルの授業の楽曲を確認しつつ、 その曲で使われるであろうリズムパターンやフレーズを演奏する。 メトロノームや音源を使い、音符休符、テンポ、ダイナミクス等、音楽的表現の練習。				
注意点	遅刻はしない。迅速なドラムセッティングが出来るよう心掛ける。会話してるとき等に無駄な楽器の音を出さない。 理解出来なかった事は質問する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	前期のおさらい（1）		前期前半の復習、バリエーション		
2回	前期のおさらい（2）		前期後半の復習、バリエーション		
3回	8 note系リズムパターン（1）		各パターン練習		
4回	8 note系リズムパターン（2）		アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈		
5回	16note系リズムパターン（1）		各パターン練習		
6回	16note系リズムパターン（2）		アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈		
7回	Triplet系リズムパターン（1）		各パターン練習		
8回	Triplet系リズムパターン（2）		アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈		
9回	シャッフル系リズムパターン（1）		各パターン練習		
10回	シャッフル系リズムパターン（2）		アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈		
11回	ボッサ、サンバ等コンテンポラリー		各パターン練習		
12回	Jazz Feel（1）		4beatの理解		
13回	Jazz Feel（2）		楽曲演奏、4バース、8バース		
14回	まとめ		後期まとめ		
15回	テスト等		リーディングテスト		

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度		科目名	アドバンスレッスン2_b_Gt	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	プレイヤーコース（ギター）		開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	30時間
単位数	1単位					授業形態	演習
教科書/教材	楽譜、教材を講師が作成し配布し教材とする						
担当教員情報							
担当教員	鳥居隼			実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン		
学習目的							
スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リピートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせるにより、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。							
到達目標							
3週間に1回、全コースとアンサブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでいても、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。							
教育方法等							
授業概要	この授業では、3週分使い2曲を仕込む。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）3週目全体合わせとする。3週目にはライブ形式で演奏を行い。演奏者ではないプレイヤーは客席で演奏を視聴し、演奏者たちにコメントをする。即時にフィードバックが帰ってくる授業。						
注意点	この授業では、全ての授業を出席しなければ。仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの加、自らの仕込みも開り、授業の欠席等で演奏ができない学生は全体あわせに参加させない可能性もある。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	100%	発表会形式でのテスト				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 （口頭・実技）	0%					
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	課題曲（1）リーディング			各パートごと課題曲のリーディング			
2回	課題曲楽器陣合わせ			楽器陣のみで曲の全体合わせ			
3回	課題曲全体合わせ			Vo.と共に全体合わせ			
4回	課題曲全体合わせ			男子、女子各1曲ずつ合わせ			
5回	課題曲（2）リーディング			楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上			
6回	課題曲（2）楽器陣合わせ			楽譜でのリーディング能力の的認			
7回	課題曲（3）リーディング			メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える			
8回	課題曲（3）楽器陣合わせ			エフェクター等により音作りの面でも楽曲に対する対応力の向上			
9回	課題曲(2)全体合わせ			アッパーストラクチャートライアドの理解			
10回	課題曲(3)全体合わせ			Vo.と共に全体合わせ、バランスを確認する。パフォーマンスを向上させる			
11回	課題曲（4.5）リーディング			課題曲の中から各自曲を決め、ソロの表現力を向上させる			
12回	課題曲（4.5）全体合わせ1			Voと合わせパフォーマンスを向上させ、後期試験に向ける			
13回	課題曲(4.5)全体合わせ2			Voと合わせパフォーマンスを向上させ、最終チェックリハーサル			
14回	後期試験発表会			後期試験発表会 会場リハーサル			
15回	後期試験発表会			後期試験発表会			

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_b_Key	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース(キーボード)	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	材毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	金澤法皇		実務経験の有無・職種	有 音楽講師、鍵盤講師、鍵盤奏者	
学習目的					
この科目を受講する学生は、鍵盤楽器におけるあらゆる基礎となる知識、奏法について学び、プロとして必要な演奏技術と、プロとして最低限の読譜力を養うのが目的です。実際には各楽器（ギター・ベース・キーボード・ドラム）、ヴォーカリストコースの学生と同じ課題曲を練習し、アンサンブルの力・ステージングを学んでいく。					
到達目標					
この科目では、学生が鍵盤楽器の様々なジャンル（ポップス・ロック・ソウル、R&B、ジャズなど）奏法を学ぶ事と、曲づくり、アレンジにおいて必要なことを鍵盤を使って学び実践して行く事を目標とします。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、鍵盤楽器を使って様々な音楽的素養と、演奏技術、そして特に読譜力を養うのが主な目的であり、それに伴い、作曲、アレンジ技術も身につける。				
注意点	この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	実践形式での授業内で理解度を把握するので、実施しない		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するためにたまに実施する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	前期総復習		前期総復習1		
2回	前期総復習		前期総復習2		
3回	ポピュラー音楽でのテンション感		主に洋楽と邦楽のリーディング的思考の相違と、テンション感の使い分け 応用		
4回	ジャズ、R&B		ジャジーなサウンドの楽曲のコード分析と初見 応用		
5回	初見演奏		初見をする上での注意点		
6回	初見演奏 応用1		プロ的实践譜面の初見 課題曲1		
7回	初見演奏 応用2		プロ的实践譜面の初見 課題曲2		
8回	ジャズ1		初見をする上での注意点		
9回	ジャズ2		ジャズの初見とインプロ 解説 注意点		
10回	ジャズ3		ジャズの初見とインプロ 課題曲を使用して実施		
11回	アレンジ的読譜		インプロしながらの実践的初見 読譜の練習		
12回	アレンジ的読譜		インプロしながらの実践的初見 課題曲を演奏		
13回	総復習		総復習 前後期に学んだ内容の振り返り		
14回	総復習		総復習 課題曲への取り組み		
15回	まとめ		まとめ 演奏		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_c_Gt	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ギター）	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要な資料はプリントを配布します。				
担当教員情報					
担当教員	篠崎 保		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
プロギタリストとして成長して行く、その前段階のテクニックを習得する講義。様々なジャンルの楽曲、ジャズの複雑なコード進行に対しても素早く反応して適切なフレーズを弾けるようになる。ジャズ特有のスウィング感など、一人では中々体得できないノウハウを伝授する。左手と右手のタイミングが自らのトーンを決定することもあり、個性あるトーンが出すことを目的としてテクニックの習得を目指す。自分自身のパートアレンジは当然だが、他の楽器への幅広いアレンジ能力を磨き、将来の音楽に生かしてゆく。					
到達目標					
メロディアスなソロ・フレーズを作れるようになること、また、それを自分らしく表現し弾くことを目標とする。想定されたアレンジメントから変更された楽曲になったとしても、落ち着いて対応できるよう多くの知識の習得を目指す。状況に対しても焦らず対応できるミュージシャンになることを目標とする。楽曲に対して色々なスケール、フレーズ、パターン等を自由に組み合わせられることは、ギタリストとしての個性に繋がります。地道な作業であるが、日々のレッスン、そして、自宅での練習方法など自ら上達するマインドを獲得することも目標としてる。					
教育方法等					
授業概要	さまざまなジャンルの課題曲に沿って、コード・アナライズ、スケール等を説明し、耳で聞いている音が、実際にどういう音階で構築されているのか、どういう和音構成で作られているのか、また、音色による感じ方の違いなど、常にリスナーを意識した音楽を届けるギタリストを育成していく。参考フレーズを元にソロを弾けるように反復練習を繰り返す。				
注意点	必ず五線紙を用意し、授業内容のメモを取る。新しい事を身に付ける為には、相当量の練習が必要であり、授業以外の時間にも出来る限り多く練習して下さい。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ナチュラルマイナースケール①		ナチュラルマイナースケールとペントニックスケールの構成音を比較する		
2回	ナチュラルマイナースケール②		スケール上の9th,b6thを意識したアドリブフレーズを理解する		
3回	ミクソリディアンスケール①		ミクソリディアンスケールの構成音を覚える、さまざまなポジションの構成音を覚える		
4回	ミクソリディアンスケール②		さまざまなポジションでミクソリディアンスケールアドリブソロを弾く		
5回	ハーモニックマイナースケール①		ハーモニックマイナースケールの構成音を覚える		
6回	ハーモニックマイナースケール②		ハーモニックマイナースケールを使った様々なフレーズを理解する		
7回	オルタードスケール①		ペントニック的オルタード・フレーズを理解する		
8回	オルタードスケール②		メロディック・マイナーからオルタード・スケールを覚える		
9回	オルタードスケール③		オルタードスケールを使用出来るコード進行を想定してアドリブを弾く		
10回	ディミニッシュスケール①		コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールの構成音を理解する		
11回	ディミニッシュスケール②		コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールを使用できるコードを進行を理解する		
12回	アドリブソロを弾く①		ツー・ファイブ・ワンの練習		
13回	アドリブソロを弾く②		ダブル・ドミナント・モーションの練習		
14回	スケールを知る応用編①		ブルースコード進行、有名楽曲の伴奏に合わせてアドリブソロを弾く		
15回	スケールを知る応用編②		オルタードスケール、コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールを使用したアドリブソロを弾く		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_c_Bs	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース(ベース)	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	毎回必要に応じて資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	栗山宣幸		実務経験の有無・職種	有・音楽家	
学習目的					
この科目を受講する学生は、音楽活動を通じて今後の社会人として求められるコミュニケーション能力と、音楽家としての自己表現力を高めることによって自己鍛錬の必要性と喜びを学び、また他者との価値観の相違の認識と受容を繰り返すことで、幅の広い人間性と社会性を持つことの重要性を理解することが目的である。					
到達目標					
この科目では、自身の楽器をより専門的に表現力や判断力を高めることで創造的に表現できる力を身に付け、自己表現の喜びと他者との共感力を養うことと、日々の自己鍛錬の計画と実行の積み重ねによって得られるもののがいかに重要であることを理解することを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、毎週学生の理解度をヒヤリング・チェックしながら進める。他者の問題点が自己の問題と共通あるいは類似のことも多く、問題解決しながら進めていく。授業中の積極的発言も自己表現の一つと考え、疑問点や問題点をできる限りその場で解決しながら行っていく。				
注意点	この授業では、受講の態度や出席数はもちろん基本的なあいさつやマナーなど一人の社会人としてあるべき行動を求める。授業内の問題点は必ず質問またはメモに残して解消していくこと。授業内で配布されたプリント等は常時持ってくること。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	40%	期末時に総合評価する		
	小テスト	10%	授業時間内で実施		
	レポート	10%	授業時間内で実施		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内で実施		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	変拍子(2)		8分7拍子バンプとマイナーペンタトニック		
2回	変拍子(3)		リディアン♭7th・スケール		
3回	16ビート・R&Bパターン(1)		【Chicken】テーマと16ビートのR&Bフレーズ		
4回	16ビート・R&Bパターン(2)		コードチェンジに沿ってコードトーンを弾く		
5回	16ビート・R&Bパターン(3)		ミクソリディアン・スケールとマイナーペンタトニックのコードチェンジ		
6回	8ビート(1)		【Bomp Me】速い8ビートのオルタネート・ピッキング(1)		
7回	8ビート(2)		速い8ビートのオルタネート・ピッキング(2)		
8回	リディアン・スケール(1)		【Feel Like Makin' Love】テーマを弾く		
9回	リディアン・スケール(2)		ドリアン・スケールとリディアン・スケール(1)		
10回	リディアン・スケール(3)		ドリアン・スケールとリディアン・スケール(2)		
11回	リディアン・スケール(4)		【Spain】ベーシックバックキングとテーマを弾く(1)		
12回	リディアン・スケール(5)		ベーシックバックキングとテーマを弾く(2)		
13回	リディアン・スケール(6)		Gリディアン・スケール		
14回	後期復習(1)		コード進行に沿ってスケールチェンジする		
15回	後期復習(2)		コード進行に沿ってコードトーンを追う		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_c_Dr	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（ドラム）	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	スティックコントロール、シンコペーション、ADVANCED CONCEPT、JACK DE JOHNETTE、その他				
担当教員情報					
担当教員	堀越彰		実務経験の有無・職種	有・プレイヤー	
学習目的					
ドラマーがアンサンブル内でやるべきことは多岐に渡ります。アンサンブル上、最初に音を出す楽器であることが多い為、他の楽器をまとめる基礎知識、基礎力が重要となる。基本的な技術力と応用力を習得し、行き来きすることができる音楽家になることをめざす。アンサンブルの中でのリズムセクションの中心的役割を担い、即興的な対応力を身につけ、アンサンブルをよりよくするテクニックを身に着ける。					
到達目標					
フットワークのバリエーション、シンコペーション、チェンジアップなど、自分自身のドラムフレーズを個性あるプロ仕様に変えるノウハウを伝授し、それを身に着ける。現場でよりよいプレイをするには、現場を良く知ることが重要。なんども実践的な発表を繰り返し、自己のウィークポイントを確認しながら進めていく。講師のみならず、仲間からのフィードバックも真摯に受け止め、自らのドラミングに生かしていく。すべてのフレーズを楽譜を見ながら叩けるようになり、読譜して音を出せるドラマーになる。					
教育方法等					
授業概要	ステージに設置されたドラムでライブながらの発表を行う。講師だけでなく、仲間からのフィードバック、そして、自らがどのような気持ちで叩いたのか？演奏の奥にある、気持ち面も重要視していく授業。練習台によるスティックコントロール、ドラムセットによるグルーヴとフィールの習得、他の楽器とのアンサンブルによるリズムセクション形成方法と即興的アプローチのトライ。				
注意点	出席率を重要視します。続いて個々の目標に積極的に向かい向上しているか、個人練習の時間をしっかり取れているか。ドラムの上達には日々の個人練習も重要である。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験結果による評価		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	30%	授業態度による評価		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	フットワーク①		フットワークの強化 16分音符のフレーズの習得		
2回	フットワーク②		フットワークの強化 サンバキックの習得		
3回	フットワーク③		フットワークの強化 ルンバキックの習得		
4回	フットワーク④		フットワークの強化 3連符の習得		
5回	シンコペーション①		教則本シンコペーションを使った練習法 16分音符		
6回	シンコペーション②		教則本シンコペーションを使った練習法 基本パラディドル		
7回	シンコペーション③		教則本シンコペーションを使った練習法 応用パラディドル		
8回	シンコペーション④		教則本シンコペーションを使った練習法 3連符のシンコペーション		
9回	チェンジアップ		2分音符から32分音符までを正確に叩き分ける		
10回	休符移動①		8分音符フレーズ内で休符の位置をひとつずつずらす、フレーズ内の休符感覚を養う		
11回	休符移動②		16分音符フレーズ内で休符の位置をひとつずつずらす、フレーズ内の休符感覚を養う		
12回	フラム		フラムの感覚を習得する。フラムを入れてさまざまなフレーズを叩く		
13回	変拍子①		変拍子 5/4、5/8フレーズの習得		
14回	変拍子②		変拍子 7/4、7/8フレーズの習得		
15回	後期の復習		第1回から第14回までのフレーズを入れたフレーズを作曲し、発表する		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	アドバンスレッスン2_c_Key	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース（キーボード）	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	プリント配布				
担当教員情報					
担当教員	平下政志		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン/アレンジャー/コンポーザー	
学習目的					
音楽の各ジャンル;ロック、ファンク、ライトファンク、ブルース（メジャー・マイナー）、ボッサ、スウィングなど多様なスタイルに応じた即興演奏を身に付ける。テーマ演奏の為の譜面の確認　コード進行の確認　様々な記号を含め、譜面を理解し曲を覚え、アンサンブルができるように指導する。課題曲によってボーイッシングやアドリブを充実させていく。					
到達目標					
2年次は学校で用意した課題曲を演奏できる様にする。Chameleon、Freeway Jam、Cantaloupe Island、Sunny、Led Boots、he Chicken、Spain、Feel Like Makin’ Loveなど様々なジャンルの課題曲でアンサンブルができるよう指導する。					
教育方法等					
授業概要	各自ピアノ（キーボード）を一台ずつ用意して講師と共に演奏して学ぶ。 4リズムアンサンブルの授業の準備内容を主に勉強するが、ソロピアノでのインプロビゼーションも並行して学ぶ。				
注意点	課題曲に対する下準備。譜面は忘れずに必ず持ってくる。キーボードはコード進行でボーイッシングの為に譜面を読んでおく必要があります。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	60%	演奏を聴いての評価		
	平常点	40%	出席率、および授業への参加姿勢		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	1 1 thと 1 3thのコードの理解1		コンボジットモード		
2回	1 1 thと 1 3thのコードの理解2		課題曲を使って実践		
3回	1 1 thと 1 3thのコードの理解3		ナチュラル 1 1 thと＃ 1 1 th		
4回	1 1 thと 1 3thのコードの理解4		ナチュラル 1 3 thと ♭ 1 3 th		
5回	1 1 thと 1 3thのコードの理解5		ツーファイブとハーモニックツーファイブ		
6回	1 1 thと 1 3thのコードの理解6		コンボジットモードを使ったアドリブフレーズの作り方		
7回	1 1 thと 1 3thのコードの理解7		コンボジットモードを使ったアドリブフレーズの作り方		
8回	アッパーストラクチャートライアドの理解1		アッパーストラクチャートライアドの解説		
9回	アッパーストラクチャートライアドの理解2		アッパーストラクチャートライアドのボーイッシング		
10回	アッパーストラクチャートライアドの理解3		様々なコード進行の中でのアッパーストラクチャートライアドのボーイッシング		
11回	アッパーストラクチャートライアドの理解4		課題曲を使ってアッパーストラクチャートライアドのボーイッシング		
12回	今まで学んだ理論から自由な発想でのアドリブへ		スケールアウトの解説		
13回	今まで学んだ理論から自由な発想でのアドリブへ		スケールアウトの実践		
14回	今まで学んだ理論から自由な発想でのアドリブへ		1年2年で習得した内容のまとめ		
15回	総復習		課題曲を演奏・評価		